

12 特別の教科 道徳

I 本県が目指す道徳科の授業

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、
自己の（人間としての）生き方についての考えを深める道徳科の学習

II 教材研究の充実

道徳科における教材研究のポイントとその具体

中3 主題名 規則は何のために
教材名 「二通の手紙」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

道徳的価値・子供の実態・教材の活用から指導の意図を明確にする

道徳的価値の理解

授業者が、手がかりとする内容項目について、学習指導要領解説に基づいて理解する。各校の全体計画や年間指導計画を踏まえた上で、内容項目に含まれる複数の道徳的価値の中から、本時扱いたい道徳的価値を決め、明確な考えをもつ。

子供の視点から

子供の実態を把握する

ねらいとする道徳的価値に関わる子供の実態について、肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする捉え方で把握する。

終末の子供の姿を明らかにする

終末の子供の具体の姿を想像して、本時ねらう道徳性を構成する諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度）を明らかにする。

例) 「ルールだから守る」という法やきまりの他律的な捉え方を越えて、みんなの権利を尊重したいから規則を守るといように、自律的な捉え方につなげていこう。

教材の視点から

教材の活用

授業者が、道徳的価値の理解と子供の実態の把握をした上で、子供が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう、教材の活用の仕方を明らかにする。

例) 追求の中心場面で、規則を守ることの大切さや規則を守れない人間の弱さ等を考えることを通して、規則がもつ「全ての人が安心して生活できるようにするため」という意義に気付けるようにする。

学習の過程の視点から

自己を見つめる動機付けを図る導入

本時の主題に関わる問題意識や、教材の内容に興味や関心をもつことができるようにする。

多面的・多角的に考える展開前段

自他の思いや考えを交流する中で、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深める。

- ・道徳的価値の大切さ（価値理解）
- ・実現できない人間の弱さ（人間理解）
- ・感じ方は多様であること（他者理解）を通して、更に自分で考えを深めることができるようにする。

例) 「二通の手紙」における

価値理解：規則は、自分や他者の安全を守るために大切であると理解すること等

人間理解：規則は守った方がよいと分かっているが、自分よがりな思いを優先し、規則を守れない人間の弱さを理解すること等

他者理解：姉弟を思いやる気持ちも分かるし、規則を守る大切さも分かるなど、感じ方、考え方は多様だと理解すること等

生き方について考えを深める展開後段～終末

道徳的価値の意義を理解し、よりよい生き方の実現への思いや願いを深めることができるようにする。

例) 終末に至るまでの展開を踏まえて、ねらいとする道徳的価値に更に迫るためのきっかけとなる発問をする。「規則は何のためにあるのだろう」といった問題意識に立ち返るなど、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめ、人間としての生き方についての考えを深める。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【主題名】 規則は何のために (C10 遵法精神, 公德心) 中学校 第3学年

【教材名】 二通の手紙 (出典 文部科学省)

【主題設定の理由】

道徳的価値 (ねらいや指導内容についての教師の捉え方)	法やきまりは、誰もが安全で快適な生活を維持するために必要なものであり、人々の生活を規制したり、縛り付けたりするようなものではない。法やきまりを遵守することで、秩序と規律のあるよりよい社会を実現することにもつながり、その意義やよさを実感できる。
生徒の実態	生徒は、校則や学級のきまりなどを守って生活している。ただ、内面では、それぞれの規則やきまりが何のためにあるのかを意識せず、他律的に守っていたり、自分たちを制限するものとして捉えたりしている様子が見られる。
教材の活用	元さんが二通の手紙を見比べて考える場面を追求の中心場面とし、その中で思いやりと動物園の規則を尊重することについて全体で追求することで、規則の意義やよさを考える。

【ねらい】

規則の意義を理解し、秩序と規律ある社会を実現しようとする判断力を育てる。

【主な学習活動】

時	学習活動 ○発問 生徒の意識 (端末とクラウドの活用例)	授業改善の視点 取組の具体例
導入	新幹線を乗り違えた受験生のために、本来停まらない駅で停車させた記事を紹介し、運転手の行為について考える。 ○運転手の行為をどう思いますか。 自己の考えをもち、端末に入力して、他者との共通点や相違点を知る。	問題意識をもつ 主題や教材に対して興味をもてるようにすると共に、問題意識を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図ります。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 問題意識：規則は何のためにあるのだろう </div> ○元さんは、どのような気持ちで姉と弟を動物園に入れてあげたのでしょうか。 姉弟の希望を叶えてあげたい 自分が注意していれば大丈夫だろう ○元さんは、二通の手紙を見比べて、どのようなことを考えているのでしょうか。 【母親からの手紙】を見て 例外を認めてあげてよかった 【懲戒処分の通告】を見て 安全のことを考えたら、やはり規則は守るべきだった 1人のことだけでなく、皆のことを考えて規則はある ○規則は何のためにあるのだろう。 規則は自分達を規制しているものだと思っていたが、皆が安心して暮らせる社会をつくるためにあるもの 学習を通して考えたことを入力する(蓄積する)。	自分との関わりで考える 登場人物の立たされた状況に共感して、これまでの自分の体験から感じたり考えたりしたことを基にして、気持ちを考えられるようにします。 多面的・多角的に考える 道徳的価値の理解(価値理解・人間理解・他者理解)につながる発問を行い、自他の捉えの共通点や相違点を把握し、他者の考えに対する関心を高め、子供が自ら対話を進められるようにします。 その中で教師は本時のねらいに迫る子供の思いを見極め、それを全体追求の場に位置付け、自己理解を促します。
展開		
終末		生き方についての考えを深める 自己と向き合い、考える時間を十分に保障し、本時ねらいとする道徳的価値を基にして、これまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方について考えたりします。(教師の価値観の押し付けにならないように留意する)

評価の視点：下記の2点について、認め励ます個人内評価として把握する。(1時間を通して)

- ・ 規則の意義について、一つの見方でなく、様々な見方で捉え考えている。
- ・ 規則を守ることにについて、自分の体験を想起しながら考え、自らの行動や考えを見直している。